

講習No.
U06
選択

平城京の歴史と文化

講習の開催地

宇治キャンパス

講習の期間 **平成26年8月4日(月)**

受講料 **6,000円**

対象職種 **教諭**

定員	時間数	試験方法	担当講師	山中 章(三重大学人文学部名誉教授・京都文教大学非常勤講師)
70人	6時間	筆記試験		

主な受講対象者 小学校・中学校・高等学校教諭

講習の概要

平城京は710年から784年まで奈良時代の政治、経済、文化、宗教の中心として機能した首都であった。奈良時代の記録は『続日本紀』に記されているが、1954年から始まった奈良文化財研究所の発掘調査によって平安京とは異なる姿が明らかになってきた。その遺跡は国史跡として奈良市二条町一帯に保存されており、往時の首都の様子を実見することができる。本講習は長屋王邸の発掘調査成果を中心に、最新の研究成果を紹介しながら、奈良時代の歴史を考古資料から解説し、学校教育での補助資料を提供することを目的としている。

1限 9:00~10:20(80分)	2限 10:30~11:50(80分)	3限 12:50~14:10(80分)	4限 14:20~15:40(80分)	5限 15:50~16:30(40分)
飛鳥に営まれた王宮 日本の古代国家が王宮の地として興んだのが大和盆地の南端、飛鳥であった。発掘調査では推古朝の豊浦宮の一部が確認され、以後、小墾田宮、飛鳥岡本宮、飛鳥板蓋宮、難波長柄宮、後飛鳥岡本宮、大津宮、飛鳥浄御原宮と、天皇の代替わり毎に宮殿が造営され、政治の中心が形成された。これら飛鳥の宮宮を概観する。	王都の建設 ～藤原京から平城京へ～ 藤原京は694年、持統天皇によって建設された日本の古代国家初めての条坊を備えた王都であった。しかし、わずか15年で710年、平城京へ遷都される。両都の構造や都の様子は発掘調査によって具体的に知ることができるようになった。その基本構造を都の造り方からみていくことにする。	長屋王邸にみる 奈良時代貴族の生活 1988年、平城宮跡の南東に接する宅地跡から大量の木簡が発見された。分析の結果、初期にこの敷地に住んでいたのが長屋王であることが判明した。729年、謀反の罪を着せられて非業の死を遂げた長屋王の生活が木簡を始めとする大量の出土遺物から一挙に明らかになった。これら考古資料を使って、奈良時代貴族の生活文化を紹介する。	東大寺と西大寺 平城京には多くの寺院が建設された。国家寺院である大安寺と薬師寺は都の東西に配置され、貴族の氏寺は外京と呼ばれた東の別区画に集められた。741年、国分寺・国分尼寺建設の詔が発せられると、若草山の山裾に聖武天皇の亡き皇子のために建てられていた金鐘山寺が金光明寺と改称され、これが後の東大寺となる。聖武の娘、称徳天皇(後に孝謙天皇)の発願になる西大寺と共に平城京を代表する寺院となる。平城京の寺院を最新の情報を基に紹介する。	修了認定試験 4限までの授業の概要を問う試験を実施。